

第26回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ⑤

「日韓交流で見出した協働の可能性」

森口 忠輝

関西外語専門学校国際高等課程 3年



キャンプを知ったきっかけは、担任の先生が渡してくれたポスターだ。私はこれまで隣国にも関わらず韓国に行ったことがなかったため、アジアの経済に関心がある私にとってこれは大きなチャンスではないかと考えた。

高い倍率の選考であると聞いていたが、直感に任せ応募した。申込みに必要な作文は「もったいない精神」の大切さをテーマにして何度も推敲し書き直した。合格通知を受けたときは本当に嬉しく、先生や家族も本当に喜んでくれた。

韓国に到着すると、あまり実感がなく本当にここは外国なのだろうかと疑問に思うほどだった。しかし、右車線を走る車やいたる所に溢れるハングル文字、街中で飛び交う韓国語を見たり聞いたりしてようやく韓国に着いたんだな、と感じた。

会場に到着し韓国人学生と対面した。最初はとても緊張したが、メンターさんが間に入ってくれたおかげで仲良くなるのに時間はかからなかった。私の発音の悪い韓国

語も嫌な顔ひとつせず耳を傾けてくれ、丁寧に教えてくれた。

経済現場体験ではロッテシグニエルソウルを訪問した。それらは全てが圧巻だった。555mと世界で2番目に大きいホテルと言われている建物のトイレには近未来的な内装が施されており、あのトム・クルーズが宿泊したと言われるロイヤルスイートルームはとてもしらびやかで私の家よりも大きく感じた。

事業発表準備の際、「障がい者の方と会社を繋ぐアプリケーションの開発」という内容のプレゼンテーションを行った。日本語と韓国語の意味の違いに、とても苦労した。プレゼンテーションを制作するにあたっていろんな意見を何度もぶつけあった。

パワーポイントは発表会当日の2日前から作り始め、当日の午前2時までかかったがそれを作り上げた達成感は計り知れないものだった。自分のパソコンから発表用のパソコンにパワーポイントが転送できない

アクシデントに見舞われたが メンターや
仲間の協力により事なきを得た。夜は全く
寝ることができず、時間に追われ続けた発
表準備だった。

しかし結果的に事業発表は大成功し、審
査員特別賞を頂くことができた。

渡韓前、直近の日韓政府の関係は過去最
悪と言われていたのでとても不安だった。
しかし不安に感じたことさえ恥ずかしく思
えるような、韓国代表の仲間や主催してく
ださった現地の方々の温かい歓迎を私は一
生忘れないだろう。

空港に向かうバスに乗る時、みんな別れ
を惜しんだ。中には涙をこらえきれなかつ
た人もいたが、私はぐっところらえた。しか
し来年の夏に再会を約束したのでこれから
はそれを楽しみに過ごしていこうと思う。

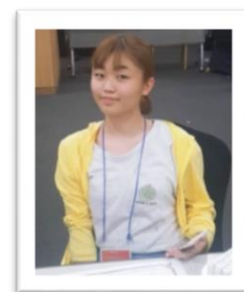
前述の通り現在の日韓政府の関係は最悪
である。しかしこれは個人の問題ではない

と思う。ホテルの自動販売機を利用しよう
と思い、1万ウォン札を入れたのだがいくら
試しても戻ってくる。その自動販売機には
千ウォン札しか利用できないことが注意書
きされていたのだが、韓国語が読めなかつ
た自分は理解できず何度も1万ウォン札を
入れていた。すると横から韓国人女性が千
ウォン札10枚と交換してくれた。女性がお
金を交換してくれなければ私は韓国滞在中
ずっと飲み物が飲めなかったかもしれない。
このように国同士が険悪な中でも心優しい
人がいるということを知れたことは大変私
にとって良い経験であった。このような人
が日韓に限らず世界中にもっと増えれば良
い、と私は切に願う。

最後に、このような貴重な機会を設けて
くださった日韓・韓日経済協会の皆様、スタ
ッフの皆様、チーム2の皆様、その他全ての
関係者様に、心から感謝したい。本当にあり
がとうございました。

「優しさそのもの」

滝川 優里奈
東京都立国際高等学校 2年



異文化理解とか、語学学習とか、ひとま
ずそういう難しいのは置いて、この5
日間、自分と、そして出会ったばかりの仲

間と、どこまで向き合えるか、というのを
本当に大切に考えて、過ごしました。そし
て、素晴らしい仲間にも恵まれました。1チ

ームで過ごした一日一日が、思い出がぎゅっと詰まった宝箱のように、色褪せることなく頭に残っています。

特に印象的だった瞬間が、4日目の事業発表後の、表彰式です。私のチームは、事業案がどれだけ正確に、緻密な計算のもと、色んなリスクを想定して作られているかではなく、いかに聞いていて興味を引いてもらえるか、そして、発表者である私たちも、楽しんで発表できるか、ということ念頭に置いていました。

発表後、チームのみんなは、やりきれなかった微妙な表情を浮かべていましたが、私は、自信に満ち溢れていました。大成功で、素晴らしい発表だったと今でも思っています。なにより、みんな顔を上げて聞いてくれた。それで十分です。

そして、緊張感に満たされた、結果発表。各賞が発表される前に、審査員として来賓して下さった方々から、コメントを頂きました。どの方も感動的な内容で、最終日のお別れの時ではなく、その表彰式の来賓の方々のコメントで、一人で大号泣していました。

そんな中、最優秀賞の発表前のコメントで、私たちのチームの事業案は確実に成功しないということを言われました(笑)。めちゃくちゃ面白かったです。ですがその直後、最優秀賞 チーム1と言われた時には、本当に、夢かと思いました。なんというか、下げてといて上げるみたいな(笑)。でも、まさか最優秀賞で呼ばれる

とは微塵も思ってませんでした。開いた口が塞がりませんでした。みんなの徹夜の努力が実を結んだ素晴らしい瞬間でした。徹夜といっても何人かは耐えきれず寝てましたけど。

そして！！我らがチーム1の、ハンドソープ！！彼の質問への返答に、私はまた泣きました。優秀賞の発表前のコメントで、チーム1にこういった質問がきました。

「もし大学へ行って、この(チーム1の)事業を起こすとするとしたら、君(なぜかハンドソープが指名された)なら、それにお金を出せるか？みんなにどうやって投資してもらおう？」なんとも際どい質問だなあ、と私は同じチームのくせに、他人事のように聞いていました。彼はそれに対し、「大学に行くことがすべてではなくて、行く先の未来で何を学んで、どういう人と出会っていくかで、未来は変わってくると思います。」と答えました。泣く場面ではなかったし、誰もが真剣にその答えを聞いていましたが、私はなんだか泣けてきて、我慢しきれず泣きました。

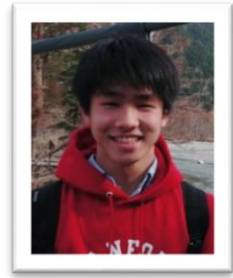
彼は高校1年生です。ちなみに日本のピアニストの方が好きです。日本と同様、学歴社会である韓国に住む1人の高校生である彼が、大学で人生は決まらない、と答えたことが、私にとって衝撃的だったんです。なにせ、日本の学生も然り、韓国の学生も、大学の名前や、偏差値を気にして、レベルの高い大学に入ることが、将来安泰だ、と思っている人ばかりだと思っていたからです。でもそうじゃなかった。質問さ

れた方は満足そうに笑っていらっしやっ
て、それもまた泣けました。涙腺が弱すぎ
ましたね。

このキャンプは 私にとって “優しさそ
のもの” でした。気分が悪く、薬を飲んで
たら、大丈夫か、とたくさん声をかけてく
れたり、メンターさんのジニーは、日本語
でいっぱい話しかけてくれて、心が温かく
なりました。

最後に、私に韓国へ行くチャンスを与
え、事前研修から韓国での行動、帰国時ま
ですべて丁寧にサポートしてくださった、
日韓経済協会の方々に深く感謝いたしま
す。最高の5日間になるようにと支えて下
さったOBの方、お忙しいところ見学させ
ていただいた韓国企業の方々、笑顔で送り
出してくれた家族、そしてチーム1 ひと
の仲間。みんなにもう一度ありがとうを言
いたいです。

「使命」



曾根崎 勇緒
聖光学院高等学校 2年

「人間は先入観にとらわれやすい生き物
である」これは僕が長い間人間の欠点とし
て問題視していることです。先入観は勝手
に作り上げられたイメージにとらわれて真
に物事を見る力を失わせてしまうもので
すが、これには様々な種類があります。

その中でも他共同体に対する先入観はも
っとも愚かなものです。人間は共同体を作
り協力しあっていきっていくため、一つ一
つの共同体として独立しあってしまうのは仕
方ないことです。しかし、その障壁に任せて
他共同体に属する人々を共同体全体のイメ
ージで解釈してしまい、一人一人の人間と
して見ず、噂などで生まれた悪いイメージ

から共同体の全員を悪者として敬遠する。
これが他共同体に対する先入観で生まれる
最悪の事態なのです。

日本人だから、韓国人だから、アメリカ人
だから、高校生だから、東大生だから、男だ
から、女だから、、、。そんなことで人を判
断していいはずがありません。これは少し
考えてみれば明らかに愚かで直すべきもの
だということは誰にでも分かるでしょう。

にも関わらず、今の日韓ではこのような
事態が発生してしまっていると感じていま
す。僕の周りにたまに韓国にあまりいいイ
メージを持っていない人がいます。その理

由は大体が政治的なものです。韓国と日本が国としてどのような動きをしているかに左右されて、韓国の国民全員に対するイメージを持ってしまい、それを一人一人にまで当てはめてしまうのです。しかし、そのような人たちは決まって韓国の人たちと関わったことすらないのです。

僕は今回の研修に参加して5日間という長い間寝食を共にし、グループで様々なことを話し合ったり遊んだりして、日本のことが好きで自分で日本語を学んでくれている友達や日本の大学に進学したいとまで考えてくれている友達ができ、自分たちがお互いの国についてどのようなことを思っているのかを共有することもできたし、日本人との普段の生活での違いなどを見ることで韓国の文化を深く理解することができて、もっともっと韓国のことが大好きになりました。

小学校の卒業式でも泣かなかった僕があんなに別れるのが惜しくなってあんなに泣いたのは初めてです。あそこで経験したことは一生忘れないと確信しています。僕がここまで韓国をいいと思えているのだから、他の人たちが同じように思えないわけがないのです。

この先入観によって生じる問題は絶対に解決しなければいけないと痛感しました。僕は先入観がいかに問題であるかを意識し始めてから先入観を持たないように気をつ

けていますが、やはり完全に取り去るのは難しいと感じることは多々あります。そこでできることは、先入観を持ってしまう対象について詳しい人が、皆が先入観を持たないように手助けすることなのです。それによって近い人の実体験から、深く知らない身としての先入観の存在に気づき、取り払うことができればいいのです。

僕はこの研修で様々な有意義な体験をさせていただきました。僕がこの研修に参加して感じたことを友達などに限らず、様々なコミュニティの人たちに発信していき、日本人が持つ韓国に対する先入観を取り除く。それこそがこの研修に参加させていただいた僕の使命です。

これは日韓の問題に限りません。今世界中で紛争が起こっていますが、それもお互いのことを正しく理解し、お互いの中に潜む先入観を取り除くことができれば絶対減らすことができるのです。僕はこのように世界の人々と交流して理解し合うということを大切にし、正しい理解を広めるという活動をしていきたいと思います。

最後に、日韓関係の雲行きが怪しく、開催自体が危ぶまれていたこの研修を予定通り開催していただき、この最高の体験をする場を作り上げてくださった日韓経済協会や韓日経済協会の方々を始めとします、運営のみなさまに深く感謝申し上げます。

「大切な日韓」



藤 碧蓮

弘学館高等学校 2年

皆さんにとって忘れられない思い出とは何ですか？

私は韓国で過ごしたあの5日間が今でも私の中で鮮明に輝き、そして大きな原動力となっています。

韓国に行くまでは本当に大変でした。出発3日前まで入院しており、退院したかと思えば日韓関係は悪化し、学校や病院の先生、家族からとても心配されました。

不安がなかったと言えば嘘になりますが、それよりも「こういう時だからこそ行って真実を知ろう」と思い、私は不安と期待を抱いて日本を立ちました。

韓国に着いてからは日本と時差がない為あまり実感が無かったのですが、飛び交う言葉やウォンの表示を見て段々と自分が韓国の空気を自覚しました。

私は韓国語を話すことができなかったの、ゴールデンベルや会議の時は自分の意見を伝えるために英語を使いました。日本語を教え、韓国語を教えてもらいながらも英語も使用し、頭が忙しくも楽しい刺激のある体験となりました。

仲良くなるのには時間がかからず、男子

の部屋でお菓子を持ち寄ってミニ・パーティーをしたりゲームをしたり、とても濃い5日間でした。

話し合いも不眠不休で全員が協力し合い、日韓の屋台を交換するという素晴らしいアイデアを出し合った結果、最優秀賞を頂くことが出来ました。また私たちのチームはメンターのジニさんとも距離が近く、11人で1つのチームとなり、一言では言い表すことが出来ないほど充実して最高で最強でした。

今回私の中で1番重要だった反日や反韓についても話し合いました。

反日だと言っている人はほんの一部でメディアなどがその一言を大きく取り上げているということ。嘘の情報も多いということ。今の日韓関係は決して良いとは言えないけれど近い将来、私たちの代では仲良くなりたいということ。

全員一致した期待以上の答えが見つかりました。

私は変わりなく韓国が大好きです。文化も人も思考も。

日本に一番近い国ですが、ある意味遠い国です。

「政治と文化は別なのだ。」
私が今回のキャンプで強く思ったこと
です。

감사합니다.

